

派遣交換留学 報告書

派遣先大学名 (国)	明知大学 (韓国)
派遣期間	2024年2月から2024年6月 約4ヶ月間
渡航年月日	2024年2月22日
帰国年月日	2024年7月1日
派遣時の年次	3年次

履修した講義名 (教授言語)	講義の履修期間	講義時間/週
Asian History and Culture (英語)	春学期 (2024年3月-6月)	2時間45分
Seminar on International Business (英語)	春学期 (2024年3月-6月)	2時間半
Understanding of International Development Cooperation (英語)	春学期 (2024年3月-6月)	2時間45分
Introduction to Korean Conversation (英語)	春学期 (2024年3月-6月)	2時間45分
Introduction to Korean application (英語となっていますが、実際はほとんど韓国語でした)	春学期 (2024年3月-6月)	2時間45分

1週間のスケジュール

曜日	午前	午後	曜日	午前	午後
日			木		
月	授業	授業	金	授業	
火	授業		土		
水	チュータリング	授業			

派遣交換留学が決まるまで、渡航準備

・交換留学に応募したきっかけは、海外で長期間生活し、他の言語を学んだり他の国の友人を作ったりすることによって知見を広げたいという想いが強かったこと、また、コロナ禍の高校時代に何度も諦めざるを得なかった留学を叶えたいと長く考えていたこと。

・海外プログラムは2年次の夏に参加済みであり、交換留学によって2つの国での生活を経験できたため、良いタイミングだったと感じる。4年での卒業を望んでいるため、卒業要件や必要単位の確認をした上で交換留学を決意した。就職活動の準備については、帰国後のインターンシップを調べたり、オンラインで受けられるキャリアセンター等のイベント、企業説明会等に参加したりした。

【渡航準備】

学内選考の結果が分かってから渡航準備を始めた。VISAの申請、保険の申請、留学先大学への登録、滞在先への連絡や契約、航空券の手配など、忙しくはあったが難しいこともグローバルセンターの方々にサポートしていただきながら進められたため、大きな苦労はなかったように感じる。特に複雑で多くの調査と時間と労力が必要であった準備としては、VISA申請と滞在先探しであったため、それらは特にできる限り早く動き始めることをお勧めする。

・航空券の手配は、自分でアプリを通して手配した。保険は、グローバルセンターから紹介いただいた保険に入った。どちらも特に困ることはなかった。

・現地の生活などについての事前の情報収集は、SNS やニュースでの韓国留学生等の発信や治安を見て情報を得た。しかし、明知大学や滞在先についての情報は、寮が閉鎖されているという前例のない状況であったこともあり、ほとんどできず渡航前の不安は大きかった。

【韓国語レベル】 韓国語は、ほとんど何もわからない状態で渡航した。授業や友人との会話などは英語であったが、レストランなど英語が伝わらない時も稀にあり、翻訳機を使っていた。しかし帰国する頃には、旅行では困らない程度には読んだり話を理解したりすることができるようになった。

交換留学先の大学について

【雰囲気】 勉学にもイベント等にも真剣に取り組むメリハリのある雰囲気を強く感じられた。定期的に様々なイベントが開催され、留学生も主体となったり参加できたりした。韓国は学歴重視の傾向が強いこともあり、テスト期間はカフェや図書館が埋まっているほど、現地の学生は本当に勉強熱心であった。留学生も多く、英語の講義を中心に取っていた私は、韓国に限らず、フランス、ベルギー、ドイツ、スペイン、ブラジル、台湾など様々な国出身の友達を作ることができた。特に、ヨーロッパ圏からの留学生が多かった。

【学内施設】 食堂や図書館、ジム、銀行、郵便局などがあり、すべて現地学生と同じように使用することができる。

【生活スタイル】 ルーティーンとしては、朝 8 時頃に起床して準備をし、午前中授業、午後は勉強をしたり遊びに行ったりし、夜は遅くとも 23 時頃には帰宅していた。

・明知大学の留学生サポートはとても充実していたと感じる。英語と中国語で行われる学期開始前のオリエンテーションで、外国人登録書や口座開設など、丁寧に教えてもらいながら進められるため、複雑な手続きも心配なかった。しかし、韓国国民保険の支払いについては、日本人は免除できるのだが、その申請についての指

示はなく、自分で調べて行ったため、頼りすぎないことも重要だと感じた。

オウラミと呼ばれる留学生サポートのためのサークルに所属している現地学生が、国ごとについてくれていて、日本語で様々な情報や予定を教えてくれたり、わからないことは気軽に相談できたりした。韓国語チュータリング（一対一で現地学生に個々のレベルに合った韓国語を教えてもらうもの）や、テコンドー、韓国伝統絵画体験、ワールドフェスティバル（食べ物やゲームを国ごとに用意する、留学生による学園祭のようなもの）などの、交換留学生用のアクティビティーも豊富であった。（参加必須）

学修面について

【履修登録】 渡航前に行われる。修正期間は渡航後であった。私は、国際関係や国際経営、基礎韓国語の授業を取った。英語で開講されるかどうかということは確認しにくく、私は最初韓国語での講義ばかり取っていて、修正期間に慌てて修正しなければいけなかったため、注意深く確認しておく必要があると感じた。また、韓国の履修登録は、先着順であるため、シラバスや時間割を考えながら目星をつけておいて、指定された日時に待機して登録することを強くお勧めする。

【講義】 自主的な発言が常に求められた。プレゼンテーションやグループワークも多くあり、テスト勉強と同時進行で準備しなければいけないタイミングもあった。周りはヨーロッパ圏出身の学生を中心として英語を流暢に話すことができる学生ばかりであったため、毎日刺激を受けながら講義を受けられていた。

- ・学修面においても常にオウラミに相談することができ、安心できた。
- ・単位付与基準は日本とあまり変わりなく、プレゼンテーションやテスト、課題、出席などによって判断される。欠席可能な回数なども日本と同じく定められている。

生活について

【シェアハウス】

- ・先述のように、明知大学の寮には入れなかったため、明知大学推奨の代替滞在先からの距離（大学から徒歩

10分ほど)・値段を考慮して選んだ。

・2人部屋、日本人ルームメイトの他に、チェコ人2人、台湾人2人の6人の共同生活であった。特に大きな問題はなく過ごすことができたが、建物は古く、想像していた以上に、バストイレなど日本とは大きく異なる仕様で最初は過ごしにくかったり、部屋は狭かったりしたため、プライバシーや清潔を強く求める場合は、避けた方が良くもしいない。しかし、最低限のもの(洗濯機や乾燥機、調理用品、Wi-Fi、浄水器など)は揃えられていたり、管理人さんも困った時にはすぐに駆けつけて下さったりととても親切で、人間関係等も特に大きな問題はなく生活することができた。

・周りには多くのスーパーマーケットや日用品店などがあり、特に不便に感じることはなかった。食事については、自炊も可能ではあったが、共用スペース、食材の値段から、家で食べる際には簡単なもので済ませ、比較的食べに出かけることが多かった。

【生活】

・交通カード(t-money card)を使ってバスや地下鉄を利用する。そのカードのチャージは、コンビニエンスストアや地下鉄の駅で、現金で行っていた。

・食事については、外食も自炊も費用はあまり変わらない印象であった。辛いものが多いこと以外は特に驚くような違いはなかった。

・日本よりは少ないとはいえ、地震があったり、デモやボイコットが活発であったりするため、常にニュースを追うことは大切だと日々感じていた。

【通信用品の使用環境と日本からの持参アイテム】

・スマートフォン(5カ月の用のSIMカードを日本から持参)とパソコンは持って行った。生活に必要なものは全般持っていったが、ヘアドライヤーは韓国で購入した(変圧器は持っていかなかったため)(ヘアアイロンは日本から持参し、使うことができた)。変換プラグはCタイプ、SEタイプどちらも持参した。合計3つ持参

し十分であった。

- ・日本で買えるもの（日用品等）は韓国でも基本的に買うことができた。しかし、インターネットショッピングは、うまくいかないことが多かったので、最初は一通り生活用品を揃えて渡韓することをお勧めする。

- ・韓国の食べ物は基本的になんでも辛かったり味が濃かったりした。苦手な人は日本食を持っていった方がいいのではないかと思う。

- ・韓国はカード社会である。私は WOW pass（韓国ウォン現金でチャージし、交通カードとクレジットカードとの両方の役割を持つもの）を使わず、日本のクレジットカードをいつも使っていた。最低2枚はカードを持っていく必要があると感じた。

現金は日常生活ではほとんど使わなかったが、色々な手続き等で使う場面が予想以上に多く、困っている友人もいたため、現金もある程度持つていくことを強くお勧めする。

- ・証明写真2枚は必ず、耳や眉が隠れていないものをデータだけでなく、プリントしたものを持っていく必要がある。

【手続き等】

- ・保険は、大学から勧められたものに加えし携帯についても、SIMを持参して行ったため、韓国では特に何の手続きもしなかった。先述のように、外国人登録証や口座開設などはオリエンテーションで進められたため、心配ないが、韓国国民保険の免除申請は自分で調べて自主的に行ったため、そこだけ注意が必要だ。

- ・韓国出国時（日本帰国時）に外国人登録証を空港で返す必要があった。

- ・滞在先は、今後についてはわからないが、今年度から交換留学生在が明知大学の寮に入ることができなかった。そのため、大学からの滞在先の候補を考慮しながら自分で滞在先を探し、連絡し、契約する必要があった。直接管理人さんとメールでやり取りをし、保証金を日本から韓国へ振り込んだことで、予約が完了した。先着順であったため、情報が発表され次第、なるべく早く計画的に準備を始めると良いと思う。

・シェアハウス退去手続きは、返金を受けたりアンケートをしたり最低限の掃除をしたりしたことで済ませられ、特に複雑なことはしなかった。

【お金のことについて】

・各種手続きや生活費、家賃など全てひっくるめて、85万円ほどかかった。

・グローバルセンターから紹介いただいた JASSO 給付型奨学金を受けていた。申請は少し複雑であったが、毎月の在学証明書提出や留学前後の報告書提出はそこまで大変ではなく、円安と物価高が進んでいるこの時期に受けられたことはとても助かった。

・ほとんどが日本から持っていったカードでの支払いで、市場や各種手続き、交通カードへの入金等で使用した現金は総額のうち6万円ほどであった。

・現金の使用頻度は少ないとはいえ、日本円は余分に持っていき、その都度換金しながら生活することをお勧めする。

【その他、注意点など】

・交通ルールが曖昧で、車などにはより気をつけなければならない。

・外国人登録証が発行されるまでの1.2ヶ月間は帰国できなかつたり、参加必須のアクティビティーの予定が突然変更されたりすることがあったため、学期開始後の大きな予定は慎重に立てるべきだと感じた。

【今後留学を検討している学生たちへアドバイスなど】

・私は1人での渡航で、友達作りや生活への不安は正直とても大きかったです。授業や友人作り、韓国ならではの経験など、何もかもに物怖じせずに積極的に行動することによって、友人にも恵まれ、充実した生活を送ることができました。言語（英語も韓国語も）への不安があっても、やってみよう！と意気込むことで、想像を上回るくらいの素敵な経験をする事ができると思います！頑張ってください！)

・韓国と日本の関係性や、歴史をよく知っておくと良いと思います。反日デモを見かけることや居づらく感じ

てしまう瞬間は正直ありましたが、その背景を知っておくことは大事だとその度に感じていました。

・しかし、観光ではお互いに人気であり、SNS等からも情報を得やすかったです。地図や翻訳等のアプリ、公共交通機関の利用方法、文化の違い、手続き関係、注意点など、様々な情報を簡単に得ることができたので、とても便利でした。渡韓前に気になることをチェックしておく、スムーズに生活を進められると感じました。



派遣交換留学 報告書



派遣先大学名 (国)	カレリア応用科学大学 (フィンランド)
派遣期間	2024 年 1 月から 2024 年 6 月 約半年間
渡航年月日	2024 年 1 月 3 日
帰国年月日	2024 年 6 月 4 日
派遣時の年次	3~4 年次

派遣先大学における授業等の履修状況

履修した講義名 (教授言語)	講義の履修期間	週あたりの講義時間
Intercultural Management(英語)	春学期 (2024 年 1 月~2 月)	約 3 時間
Digital Marketing (英語)	春学期 (2024 年 1 月~3 月)	約 1 時間半 (最後 4 日間 (8:00-16:00) にかけて intensive week あり)
Orientation to Finnish Language and Culture (英語)	春学期 (2024 年 1 月~2 月)	約 3 時間
Global Business Communication (英語)	春学期 (2024 年 2 月~4 月)	約 3 時間
Economics (英語)	春学期 (2024 年 2 月~5 月)	約 1 時間半
Intercultural Studies (英語)	春学期 (2024 年 3 月~4 月)	2 週間に 1 コマくらい(1 コマ 1 時間半)
Economic and Social Sustainability in Tourism (英語)	春学期 (2024 年 3 月~5 月)	約 1 時間半

1 週間のスケジュール (毎日授業がバラバラに組まれているため確定したスケジュールがありませんでした。)

派遣交換留学が決まるまで、渡航準備

交換留学に応募したきっかけや、どのようにして渡航準備・現地の情報収集を行ったか、海外プログラムや就職活動への不安や工夫したことについて記載してください。

私が交換留学に応募したきっかけは、海外留学をすることに夢を抱いていたからです。人生で一度は海外で過ごして勉強をしたいとずっと考えていたため、今回応募しました。フィンランドを選んだ理由としては、応募当時提携先の国が韓国か、台湾かフィンランドしかなく、自分の中ではアジア圏を視野に入れていなかったためフィンランドのみを志望しました。私は元々卒業後の進路として大学院進学を考えていたため、就職活動に対しての不安は一切なかったです。それよりも経験に重きを置いていました。

九月の半ば頃に渡航することが完全に確定したので、決まり次第直ぐに準備に取り掛かりました。グローバルセンターの職員の方が一つ一つ順序立てて手続きの仕方を教えてくださったのでその通りに進めました。ビザ申請のための大使館は 11 月半ばに

伺ったのですか、在留カードは 12 月の前半には届きました。申請には 2 ヶ月ほどかかると大使館のホームページに書いてあったりして、当時はとても焦っていましたが、順序通りに書類の不備なく申請すればすぐスムーズに行くと感じました。

正直交換留学先の大学、現地での生活、母国語（フィンランド語）については特に何も調べずにいきました。1 月の渡航だったので防寒対策は必須だったため、気温や現地の人々の服装などについては軽く調べました。生活に関しては暮していく間にどんどん慣れていくものであると思い、調べずにいきました。

航空券や初日の交通手段の手配は、母親の知り合いで航空会社（代理店？）の方がいらっしゃるの、その方が全て手配してくださいました。保険は県立大学が提示したジェイアイ傷害火災保険に加入しました。

交換留学先の大学について

留学先大学の印象や現地学生の雰囲気、1 日のスケジュール、交換留学先大学の留学生受入サポートやオリエンテーションの様子、利用できる学内施設にはどのようなものがあるか記載してください。

カレリア応用科学大学は二つキャンパスをもっており、どちらも広いキャンパスではなく、比較的小ぢまりとしています。授業が現地学生と International Students と分かれていたので正直現地学生と関わる機会はなく、常に他の交換留学生と関わっていました。

学内で利用できる施設は、教室、カフェテリア、図書室、そして自習スペースがあります。図書室は普段経営学部の学生が授業を受けないもう一つのキャンパスにあります。2 つのキャンパスの距離は徒歩 20 分ほどです。おすすめの施設は図書室です。静かでとても過ごしやすかったです。

一週間のスケジュールはとる授業によって変わってきます。フィンランドの大学の授業は曜日ごとに決まっているわけではなく、毎回科目ごとで開始時間も曜日も変わります。そのため毎回スケジュールが確認できるアプリでスケジュールを確認して授業を受けます。1 日 4 コマほどある日もあれば全休の日もあります。取っている科目とその科目数（単位数）によって日々の忙しさが変わってきます。

カレリア応用科学大学の留学生受入サポートはとても手厚かったです。まず入国前に自分担当の Tutor さんがついてくれます。ヨエンスーの現在の気温、服装などを逐一教えてくださったのが助かりました。また交換留学生のためのイベント企画、そして町の案内もしてくださいました。オリエンテーションでは校内案内や授業の受け方など細かく説明してくださったので不安などは一切ありませんでした。

学修面について

留学先大学の授業の様子、履修科目と履修方法、学修面の相談に乗ってくれる人や場所、また単位修得にあたり注意点があれば記載してください。

授業の形は科目によって異なりました。講義形式が主な科目もあれば、ディベートやプレゼンも交えた授業もありました。どの科目にもグループワークはあるような印象です。授業外の課題の場でもグループで取り組む時も多かったので、集まれないときは zoom などを利用して課題をこなしていました。

履修登録はすべてガイダンスの時に細かく説明を受けることができます。シラバスの見方なども教えてもらえるので履修科目もその時確認することができます。

学習面で相談にのってくれる場所も設けられています。それもガイダンスのときに説明されます。私は利用しなかったのですが詳しいことはよくわかっていません。

単位付与基準も科目によって異なります。筆記のテストがあったり、テストがなくプレゼンテーション自体が評価の対象になったりしました。興味深かった評価法としては、模擬交渉テストです。自分が実際に会社に所属していると想定して、相手の会社と交渉を行っていく。そんな模擬試験が行われました。基準点がそれぞれどれくらいなのかは正直わかりません。

生活について

滞在場所はどのように決まりましたか。滞在先とそこでの生活の様子を記載してください。

宿泊先のアパートは現地の大学の提携先のアパート会社から借りました。それらの概要やどのように申し込むかどうかは交換留学が確定して直ぐに現地の大学から細かく内容が来たのでスムーズに申し込むことができました。私の滞在していたフラットは、大学から徒歩 40 分ほどのところにあり、バスに乗れば 15 分ほどで着きます。雪が積もっている間はずっとバスに乗って通学していました（バスのシーズンチケット（1 ヶ月間有効）は約 48€）。

フラットメイトは私以外に 2 人いました。それぞれ中国と日本からきた交換留学生でした。キッチンやトイレ、シャワールームは共有で一人一部屋あるという形です。みんなでご飯を作りあったり、今日何をして過ごしたのか語り合ったりとても素敵な時間を毎日過ごしました。



スーパーやレストラン、学食、日々の食事などの様子、習慣の違いに戸惑ったことがあれば記載してください。

スーパーは基本的に野菜などは量り売りが多かったです。じゃがいもは 1 キロで約 1 €ととても安価でした。お米も日本と味も形も似た種類が 1 kg 2€もせず売っていたので、もしかしたらお米は日本よりも安く手に入るかもしれません。やはりパスタもとても安価で売っていたので、自炊ではパスタと米を中心に食べていました。

ヨエンスーにはアジアショップがシティーセンターに一店舗あるので、どうしても日本食が恋しくなったとき、手に入れることができます。私は韓国のインスタントラーメンをよくそこで買っていました。また、普通のスーパーマーケットでも醤油やみりんは売っています。

学食はその日のメインを 1 種選んで、それプラスでサラダバーとパンが好きだけ食べることができました。生野菜を自分で買って食べることは金銭面的に難しかったのですが、学食で野菜が好きだけ食べられるのでとても助かりました。パンも自分の好きなだけ取り放題だったので毎回お腹いっぱい食べることができました。学食は本当におすすめです。



全体的に習慣の違いに戸惑うことはありませんでした。しかし外で買うものは基本的に味が濃いものが大半なので、薄味が好きな人は少し大変かもしれません。自炊しやすい環境ではあるので、直ぐに慣れるかとも思います。

通信機器（スマホ、パソコン）の使用環境と、日本から持参した方がよいアイテムを記載してください。



スマートフォンやパソコンは日本から持参しました。これといって必要な設定はありません。現地の sim カードですが、フィンランドでいうコンビニエンスストア（R-kiosk）で簡単に購入することができます。私はフィンランドに到着した時空港にある R-kiosk で購入しました。私が使用していたのは D N A の Rajaton Prepaid です。これはデータ無制限で使用できるプランのものです。Sim カード自体の料金が 5€, そして 30 日間の使用で 26€ かかります。しかしデータは無制限なので、パソコンなどと iPhone を繋げることで Wi-Fi なしでスマートフォン以外の機器も使用することができます。

Wi-Fi を自分のフラットで使いたい場合は、まず部屋を契約する際に Wi-Fi の使用を申し込みます（月額 20€）。その後現地で Wi-Fi の機械を購入し、部屋に自分で設置する流れです（機械は安くて約 40€ らしいです）。私は機械を探すことが面倒だと感じたため、データ無制限の sim カードのみを使用して過ごしていました。

日本から持参した方がよいアイテムとして変換プラグがあります。日本のコンセントと異なるため持参した方がよいです。現地で購入することもできますが、日本で買った方が安価です。イギリス以外のヨーロッパの国々で変換プラグは同一のものが使えました。

病院の受診と支払い方法について記載してください。

病院を一度も受診しなかったのではありません。しかし、軽い風邪をひいた瞬間はあったので日本から風邪薬を持参することは大切だと思います。

カレリア応用科学大学のキャンパスから徒歩 10 分ほどのところに大きな病院がありました。

入国から学期が開始されるまでの間に必要な手続きについて記載してください。

特にそれといった手続きはありませんでした。保険の契約や宿泊手続きなどは入国前に完了することができます。入国前にカレリア応用科学大学の自分担当の Tutor さんが連絡をくれます。その方がヨensuu に到着した時にお迎えにも来てくれ、アパートの鍵の手続きを一緒に行ってくれて、そしてアパートへも送迎してくれました。そのため Tutor さんとの連絡を忘れずすることが初日は大切です。

大学ガイダンスは授業が始まる少し前に大学で行われました。その時に大学のキャンパス案内、学食の頼み方、ヨensuu での生活など一通りの説明を受けます。また同時に履修登録も行います。渡航準備の際に組んだ履修科目にもし変更や質問などがあつたら、その場で対応してもらえます。またそのガイダンス中に自分の在留カードの番号登録を大学経由で行う案内もしてもらえます。後日大学からくるメールに登録する簡単な手続きだったので、ガイダンスに出席していれば迷わず行うことができると思います。

学期が終了して帰国までの間に必要な手続きについて記載してください。

学期が終了して帰国までの間に必要な手続きは、アパートの解約手続きです。手続きといっても、そのアパート会社にメールで退去日を連絡するだけです。そうするとメールで掃除するポイントや鍵の返却の詳細まで細かく記載されたファイルが添付されてきます。

それ以外にこれといった手続きは一切ありませんでした。

その他、市内の移動方法や、留学生コミュニティ、留学期間中の外国旅行について、留学生のアルバイトなどについて記載してください。

市内の移動手段は一般的にはバスか自転車、加えて電動スクーターもあります。小さい町ではあるので徒歩でも移動できます。バスの乗車には“Waltti mobiili”というアプリを使用します。自転車は私自身持っていなかったのですが、私の友人たちは自転車をレンタルしていました（2ヶ月間で20€）。

留学生のコミュニティはありました。International Students での集まりが数回開かれたり、私はフラットメイトの一人が日本人だったので、その子の周りの日本人の子たちでご飯会をしたりしていました。またカレリア応用科学大学では学生主体の office の POKA が交換留学生のためのイベントを何度か開いてくれました。私はその中でソリやアイスフィッシング、そしてイースターエッグペイントのイベントに参加しました。



留学期間中に私はヨーロッパの国々をたくさん旅行しました（約 10 カ国）。私の経験から、フィンランド自体旅行はしやすい環境にあると思います。しかしヨーロッパなので、やはりスリなどの犯罪も多いので旅行する際は注意が必要です。旅行できたことも私の貴重な経験、思い出の一つになったので、留学行かれる方は絶対した方が良いでしょう。

街中では英語は基本的に使えます。しかし表記や地元の方々にはフィンランド語が一般的なのでグーグル翻訳はインストールしておいた方がいいです。ヨエンスーではバスの乗り降りの際に“Kiitos（フィンランド語でありがとう）”をいう文化があるのでキートスだけは覚えておいた方がいいです。

お金のことについて

学校生活や宿泊先などで必要な費用について記載してください。また日常生活の買い物で一般的な支払方法、お金の持参方法や現地での管理方法について記載してください。

宿泊費用は家具付きのフラットを選択して、一ヶ月家賃約 240€でした（4万円前後）。この家賃に光熱費や水道料金も含まれています。洗濯機と乾燥機の使用にも特に料金は追加でかかりませんでした。食費は人によると思いますが、私は毎月2万円はかからなかったです。自炊をすれば金額は抑えられると思います。学校生活では学食が 2.95€でその他には特に費用がかかる瞬間はありませんでした。

日常生活での一般的な支払い方法はクレジットカードです。現金も使えますが、基本的どこもクレジットカード社会なので絶対に必要です。クレジットカードは二枚持っているとか何か起きた時にも安心です。私は最後の残り一週間でクレジットカードが止まってしまい、一枚しか持参してなかったためとてもあたふたしました。

あと必要な費用として、sim カードの料金（私の使用していたカードは月額 26€）、冬の間はバス 1ヶ月間 49€など、私は家賃も含めて合計月 8万円前後の費用がかかりました。

その他 ※上記以外の項目で伝えたいことがあればお願いします。

この留学が自分にとってかけがえのない体験になりました。たくさんの友達もできました。留学する前はこの時期に留学をすることは間違っているのではないかと不安を抱きましたが、それを超える素敵な思い出を得ることができました。この経験を私はずっと忘れません。

